

令和8年度施政方針及び予算編成方針



「リ・スタートうすき」を「次のステージ」へ

臼杵市長 西岡 隆

昨年1月に市長に就任させていただいてから、早くも2年目を迎えることとなりました。

この間、市民の皆さまをはじめ多くの皆さんにご理解とご支援を賜り、市政運営を大きな混乱なく進めることができたことに対して、改めて感謝いたします。

次の令和8年度の施政方針及び予算編成方針に基づき、市民の皆さまから託された期待に応えるべく、現実をしっかりと見据え、一步一步着実に前進しながら、市政運営に全力を尽くしてまいります。

【令和8年度施政方針】

市民との「対話」を大切に

市長就任以来、私が一貫して最も大切にしてきたことは、市民の皆さまとの「対話」です。可能な限り市内各地に足を運び、多様な立場の方々の声に直接、耳を傾けることを自らの責務としていました。これまで22回にわたり開催してきた「市長と話そう」をはじめ、地域において寄せられた数多くの声は、市政運営の確かな指針であり、臼杵の未来を切り拓くための原動力となっています。

スローガンは「リ・スタートうすき」を「次のステージ」へ

こうした市民の皆さまの思いを踏まえ、令和8年度は「リ・スタートうすき」をさらに深化させ、「次のステージ」へと確実に歩みを進める年と位置付けます。

私は、旧臼杵市と旧野津町の合併20周年という節目の年に市政の舵取りを担うこととなりました。人口減少や少子高齢化、地域経済を取り巻く環境の変化など、臼杵市が直面する課題は決して小さなものではありません。こうした現実を真正面から見据え、持続可能な臼杵市を次世代につないでいくため、「リ・スタートうすき」を「次のステージ」へに向けて市政運営に全力で取組めます。

臼杵市八町大路火災への対応

市長就任以降、私が最優先課題として取組んできたのが、一昨年11月に発生した八町大路火災への対応です。八町大路は、長い歴史の中で育まれてきた臼杵の象徴であり、ここが再び活気を取り戻さなければ、臼杵の城下町全体、ひいては臼杵

市全体の再生はあり得ません。昨年12月に「八町大路火災復興連携会議」において取りまとめられた復興方針を踏まえ、令和8年度は、いよいよ事業の具体化を進める段階に入ります。今後も関係者一人ひとりの声に丁寧に向き合いながら、着実な復興と前進を図ります。

## 2年目となる西岡市政がめざす3つの柱

臼杵市は、少子高齢化と人口減少という、避けて通ることのできない大きな課題にも直面しております。この20年間で人口は1万人以上減少し、今後もその傾向が続くことが見込まれています。

私はこの厳しい現実を重く受け止め、持続可能な臼杵市を実現するため、引き続き、柱となる3つの政策を軸に市政運営を力強く進めます。

### 1つ目の柱は「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」

臼杵市の最大の力は、市民の皆さま一人ひとりであります。中でも、子どもたちは本市の未来を担う、かけがえのない存在です。「こどもまんなか」の視点に立った施策を着実に推進することが、子育て世代の安心した暮らしを支え、子どもたちの夢や希望を育むことにつながると考えています。

子育て支援については、私の市長就任後、早期に実現した小・中学校給食費の無償化を引き続き継続し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。

あわせて、地元・臼杵市産の安全で新鮮な食材を積極的に活用し、単なる無償化にとどまらず、子どもたちの健やかな成長を「食」の面からも力強く支えます。

また、妊娠期から出産、子育て期に至るまで、切れ目のない支援を行うため、相談体制のさらなる充実を図るとともに、安心して市内で出産できる環境づくりを進めます。経済的支援を含め、子育て世代が将来への不安を抱えることなく、臼杵で子どもを産み、育てることができる体制を整えています。

働きやすい環境づくりにおいては、デジタルや情報関連分野をはじめとする新たな働き方に対応した場所や仕組みの整備を進めます。都市部で働く若い世代に対し、「臼杵で暮らしながら働く」という、いわゆる二地域居住の新たなライフスタイルを提案し、関係人口の拡大と地域の活力創出につなげます。

教育面では、子どもたちが、ふるさと臼杵に誇りを持てるよう、地域の自然、文化、歴史に直接触れる体験的な学びの機会を充実させます。こうした学びを通じて、臼杵の魅力を実感し、将来にわたって地域を思う心を育みます。

さらに、次世代を担う人材の育成に向けて、若者や女性が主体的に自身のキャリアを描けるよう、学びと実践の場を整備します。

あわせて、ふるさと臼杵に戻りやすい環境を整えるため、県内自治体で最長・最大となる奨学金返還支援制度を導入し、将来を担う人材の定着を図ります。

### 2つ目の柱は「臼杵の地域資源の魅力発信」

臼杵市には、農業や漁業をはじめとする豊かな自然と、長い歴史の中で培われてきた伝統があります。これらの地域資源を次世代へ確実につないでいくため、引き続き、地域産業を支える人材の育成、とりわけ次代を担う若手の育成に力を注いでまいります。

あわせて、地元で生産される農産物や水産物に新たな付加価値を加え、加工品の開発やブランド化を進めることで、全国、さらには海外においても選ばれる特産品の創出に取り組みます。

旧野津高校跡地の再活用につきましては、多世代交流館「のつてらす」に続き、令和8年度にグラウンド跡地において、大分県農業協同組合による高糖度かんしょ「甘太くん」の広域選果場が稼働することとなっております。今後は、同施設を核として、地域活性化とさらなる農業振興の拠点としての機能を高め、有効活用を図ります。

観光分野においては、ユネスコ「食文化創造都市」への加盟から5年目を迎える節目を踏まえ、「クリエイティブシティ」として、臼杵ならではの創造性あふれる「食」の魅力を一層磨き上げてまいります。国内外から選ばれる都市へと成長していくため、ブランド力の強化を図るとともに、デジタル技術を活用した観光案内の充実を進め、地元企業と連携した新たなビジネスの創出にも積極的に挑戦します。

本市にとって重要な自主財源であるふるさと納税につきましては、新たな返礼品の開発・導入に取り組むとともに、市長自らが先頭に立つトップセールスにより、企業版ふるさと納税の拡大を図り、納税額の着実な増加につなげます。

また、デジタル化の推進については、地域内での資金循環を促進するため、デジタル地域通貨の導入を本格的に進め、地域経済の活性化を図ります。

あわせて、市役所業務のDXを着実に進め、生成AIの活用を含めた業務の効率化と、市民サービスのさらなる向上をめざします。

### **3つ目の柱は「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」**

誰もが安心して日々の暮らしを送ることができる環境を整えることは、行政に課せられた最も重要な責務です。中でも、防災体制の強化は、市民の命と暮らしを守るうえで欠かすことのできない取組です。防災情報を迅速かつ的確に共有できる体制の整備を進めるとともに、避難所の設備や環境の改善を図り、災害時においても的確かつ迅速に対応できる体制を構築します。

あわせて、地域の皆さまが日頃から支え合い、顔の見える関係を築いていくことができるよう、地域振興協議会を中心とした地域活動への支援を一層充実させ、地域コミュニティの維持・向上に取り組めます。こうした取組を通じて、災害時のみならず、高齢化が進む中においても課題を乗り越えていける、力強い臼杵市をめざします。

さらに、医療・介護・福祉分野の連携をより一層強化し、本市独自の医療情報連携基盤である「うすき石仏ねっと」を活用しながら、認知症の方への支援や在宅医療の充実を図り、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる体制を整えます。

### **令和8年度重点施策**

これら3つの柱に基づく重点施策を着実に実現していくため、市民の皆さまとの対話を通じて寄せられた声を丁寧を受け止め、この1年間、熟慮を重ねてきた新たな施策を令和8年度から展開します。

- ①市内産婦人科で出産された方への経済的支援を行う「**出産・子育て応援助成事業**」
- ②地域内での消費拡大と市民の地域活動への参加意欲の向上を図る「**デジタル地域通貨事業**」
- ③野津地域において整備を進めている定住促進住宅用地の分譲を行う「**野津若者定住促進事業**」

あわせて、既存事業につきましても現実を直視し、急速に変化する社会情勢や多様化する市民ニーズに即した内容へと不断の見直しを行います。

また、国の交付金を活用した物価高騰対策を着実に進めるとともに、中九州横断道路の犬飼 IC から宮河内 IC までの延伸を見据え、市内交通インフラの早期整備に向けた働きかけを積極的に行います。

## 市の組織体制見直し

これらの施策を、スピード感をもって着実に推進していくため、市の組織体制の見直しにも取り組んで市民一人ひとりの思いに寄り添う市政の実現に全力を尽くします。

- ①「総務課DX推進室」 ⇒ 「DX戦略課」（改組・昇格）
- ②「契約検査課」 ⇒ 「契約・総務事務課」（改組）  
※①・②については令和8年3月議会に条例改正を提案
- ③「DX担当政策監」を新たに配置
- ④「食文化創造都市推進室」⇒「クリエイティブシティ推進室」（名称変更）
- ⑤ 教育総務課内に「未来の学校デザイン室」を設置（新設）

## 【令和8年度予算編成方針】

令和8年度当初予算は、「リ・スタートうすき」を確実に「次のステージ」へと進めるための、極めて重要な一歩として位置付けています。

本市が直面する最大の課題である人口減少問題の克服に向け、「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」「臼杵の地域資源の魅力発信」「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」という3つの柱の実現を加速させる「未来重点型の積極予算」を編成しました。

## 臼杵市八町大路火災への対応

最優先事項として取り組んでいる八町大路の復興につきましては、昨年12月に「八町大路火災復興連携会議」において取りまとめられた復興方針に基づき、復興の歩みを一日でも早めるため、必要な支援策を講じます。

復興方針に掲げられた「商住共存ゾーン」においては、官民連携による商業・観光振興に資する復興を実現するため、ワーキンググループの開催経費を計上いたしました。これにより、具体的な事業内容や実施手法の検討を進め、実効性の高い取組へとつなげます。

また、歴史的な町並みと調和した「防災空間ゾーン」の形成に向け、ポケットパークの整備に着手するとともに、空き店舗等を活用して営業再開をめざす方々への支援を行ないます。

今後も、被災された皆さまの思いに寄り添いながら、復興に向けた必要な支援を着実に講じます。

## **1つ目の柱は「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」**

国が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向け、本市においても、その歩みを一層力強く進めています。こどもの幸せを最優先に考え、関係機関との連携をこれまで以上に強化するとともに、すべての妊産婦、子育て世帯、そして未来を担うこどもたち一人ひとりに寄り添い、多様なニーズに応じた支援を着実に展開します。

### **【給食無償化の継続と安心・安全な給食の提供】**

子育て世帯の経済的負担を軽減し、子育てしやすい環境を整備するため、令和7年度から国の制度に先行して実施している小・中学校給食費の無償化を、令和8年度も引き続き継続します。

あわせて、質の高い給食の提供を図るため、地元生産者との連携を強化し、臼杵産の有機米や新鮮な野菜を積極的に活用した、栄養バランスに配慮した安心・安全な給食を提供します。

### **【こども誰でも通園制度】**

親の就労状況にかかわらず保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」を令和8年度から本格実施いたします。これにより、すべてのこどもに良質な成育環境を確保するとともに、就労形態やライフスタイルを問わず、すべての子育て家庭への支援を強化します。

### **【うすき石仏ねっと】**

安心してこどもを産み、育てられる環境づくりに向け、「うすき石仏ねっと」を活用した支援体制の強化を図るとともに、ライフステージに応じた切れ目のない支援を継続します。

### **【切れ目のない子育て支援の更なる充実】**

妊娠・出産期においては、将来を見据えたプレコンセプションケアの普及・啓発や不妊治療助成をはじめ、妊産婦医療費の助成、産後ケア事業、出産祝い品の贈呈などの取組を引き続き実施いたします。

子育て期においては、保育料の完全無償化や副食費の助成に加え、出生から高校生世代までの医療費完全無料化を継続し、経済的負担の軽減を通じて、子育て世代が将来に希望を持てる環境の充実・強化に取組めます。

また、新たな取組として、市内産婦人科での出産に対する経済的支援を導入するとともに、産後ケア利用時の助成を実施し、妊娠期から子育て期までを通じた、より手厚い支援体制を構築します。

## 【移住・定住】

関係人口創出に向けた新たな施策として、「保育園留学」事業を開始します。これは、都市部の子育て世帯が一定期間、臼杵市に滞在し、こどもは市内のこども園などに通い、保護者はリモートワーク等により就労することができる「地域暮らし体験プログラム」です。本市の恵まれた子育て環境を実体験していただくことで、将来的な移住・定住につなげます。

## 【教育環境】

西中ブロックにおける小中一貫校の設置に向け、その指針となる「基本構想」を策定いたします。義務教育9年間を見通した系統的で質の高い教育環境の構築をめざします。

また、令和9年度の小学校統合を見据え、海辺小学校および野津小学校において、こどもたちが新たな環境のもとで共に学び、健やかに成長できるよう、校舎の改修を行うなど、受け入れ体制の整備を進めます。

あわせて、小中学生の基礎学力の定着と向上を図るため、ICTを活用した教育内容の充実や、放課後チャレンジ教室の拡充に取り組めます。ICTの活用については、令和2年度に導入した学習用タブレット端末の更新を行うとともに、アシスタントティーチャーやICT教育支援員を配置し、専門人材による多角的な支援を通じて、学習支援体制のさらなる強化を図ります。

## 2つ目の柱は「臼杵の地域資源の魅力発信」

### 【農業振興】

「第2次ほんまもんの里みんなでつくる臼杵市食と農業基本計画」に基づき、各種施策を着実に推進してまいります。本計画をより実効性の高いものとするため、臼杵市農業振興会議を中心に関係機関との連携を一層強化し、計画の進捗管理を的確に行いながら、掲げた目標の確実な達成に向け、全力で取り組めます。

### 【漁業振興】

近年の高齢化や水産資源の減少、燃油価格の高騰といった厳しい状況を踏まえ、令和7年度より漁業振興コンサルタントを任用し、専門的な支援体制を構築しました。令和8年度においては、こうした専門的知見を活かすとともに、新たな取組として、地産地消の促進と地元市場への安定供給を図るため、臼杵魚市場への年間総出荷額に応じた「水産物出荷奨励金」を創設いたします。これらの施策を両輪として、水産業の持続的な発展を多角的に支援します。

### 【デジタル地域通貨】

新たな取組として、デジタル地域通貨事業を本格的に実施します。本事業は、市内限定で利用可能なデジタル決済システムを導入し、地域経済活性化の基盤を構築するものです。地域内での資金循環を加速させ、消費の拡大を図るとともに、市民の皆さまの地域活動への参加意欲を高め、コミュニティのさらなる強化につなげます。

運用開始にあたっては、チャージ額へのプレミアム付与などの利用促進策を講じ、物価高騰の影響を受ける家計への支援と、市内経済の活性化を同時に進めます。

## 【循環型社会の実現】

バイオマス産業都市構想については、これまでの取組を再点検して、豊かな水資源や醸造業、農林水産業といった本市の強みを軸に、構想の再構築を進めてまいります。市民や関係事業者と連携し、SDGsの視点から地域資源を活かし育てることで、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

## 【記念すべき節目の年】

本年は、「第30回うすき竹宵」の開催をはじめ、「野上弥生子記念館」の開館40周年、さらには「風連鍾乳洞」発見100周年など、長年にわたり市民に親しまれてきた多くの貴重な資源が節目を迎える年です。

これらの機会を、未来への飛躍につなげる契機と捉え、本市ならではの地域資源を最大限に活かし、持続可能で力強いまちづくりを推進します。

## 3つ目の柱は「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」

移住・定住者への居住支援につきましては、家賃補助や新築・改修支援が例年多くの方に利用され、移住促進において着実な成果を上げています。住みやすさの向上に資する有効な施策として、令和8年度においても引き続き実施します。

## 【住環境】

野津中学校横に整備を進めている定住促進住宅用地、全12区画の分譲開始にあわせ、次代を担う若年世帯や子育て世帯に対し、手厚い助成を講じます。こうした住まいづくりへの支援を通じて、新たな人の流れを生み出し、地域に活力をもたらすまちづくりを進めます。

## 【医療・介護強化】

「うすき石仏ねっと」の安定的な運用をはじめ、健診内容の充実による疾病の早期発見、地域包括ケアの推進に取り組めます。これらの取組を通じて、市民の皆さまが住み慣れた地域で、健やかに、そして安心して暮らし続けることができる支援体制を構築します。

また、乳幼児の肺炎・気管支炎の主要な原因である、RSウイルスの感染を防ぐため、妊婦を対象としたRSVワクチン接種が令和8年度より定期接種の対象となったことを踏まえ、本市においても、希望される方が円滑に接種を受けられる体制を整え、地域全体でこどもたちの健やかな成長を見守ります。

## 【防災機能】

小中学校5校の屋内運動場における空調整備に向けた設計業務委託を実施するとともに、野津中学校においては設置工事を行います。これにより、平時における熱中症対策に加え、災害時の避難生活における生活環境の向上を図ります。

あわせて、防災カメラ設備の更新や食料等の備蓄拡充、避難通路の改修を着実に進めるとともに、避難所における多目的テントやパーテーション、携帯電話等の充電設備を整備し、地域防災力のさらなる向上に取り組めます。

## 【消防機能強化】

消防分野につきましては、耐震性貯水槽の設置や 小型動力ポンプ積載車等の更新を進めるほか、林野火災などホースの延長が困難な現場において有効な「背負式消火水のう」を整備するなど、消防力の一層の強化を図ります。

## 【公共施設整備】

公共施設整備につきましては、市民生活や産業活動を支える基盤である道路や橋りょう等の整備、道路維持補修事業に積極的に取組ます。また、雨水対策として、引き続き狭間第4雨水幹線の整備を進め、市浜地区の浸水対策に努めます。

## 【その他の取り組み】

上記の3つの重点施策に加え、次の取組についても推進していきます。

## 【人材育成】

次世代を担う人材の育成に向けては、人材育成塾「やるこしベース」を核とした取組を推進いたします。「やる気満々」を意味する方言から名付けたこの拠点において、若者や女性が主体的に自身のキャリアを描けるよう、学びと実践の場を提供するとともに、多様な業種の人材ネットワークを構築し、新たな発想による地域課題の解決につなげてまいります。

## 【庁内ネットワーク】

行政運営の効率化と働き方改革を加速させるため、庁内ネットワークの刷新を行います。国の指針に基づき、安全性を確保しつつ、場所や環境にとらわれない柔軟な働き方を実現する仕組みを構築します。

## 【新環境センター】

令和8年度当初予算で最も金額が大きい「新環境センター建設事業」については、大分市などと連携して着実な整備にかかる進捗管理を行うとともに、令和9年10月の本格稼働に向けて、ゴミ出し方法の変更などについて、市民の皆さまへ丁寧な説明を重ねていきます。

## 【物価高騰対策】

物価高騰対策につきましては、国の「物価高騰対応地方創生臨時交付金」を活用し、影響を受けている生活者や事業者に対し、切れ目のない支援を講じます。具体的には、令和7年度に引き続き「水道基本料金減免等事業」を実施し、生活や事業活動に欠かせないライフラインに係る負担の軽減を図ります。

さらに、地域内消費の拡大や市民の地域活動への参加意欲の向上、地域コミュニティの強化を目的として、チャージ額に対するプレミアム分を付与した「デジタル地域通貨事業」を展開します。

加えて、市内認可保育施設における主食費について、お米の価格高騰分を補助する「幼児教育・保育施設等物価高騰緊急支援事業」などを実施し、市民生活と地域経済を力強く支えます。

### 【自主財源の確保（ふるさと納税）】

自主財源の確保策として重要な「ふるさと納税」につきましては、本年度、現時点で約6億円のご寄附をいただいております。寄附者の皆さまから寄せられた温かいご厚志は、本市の発展のため、引き続き大切に活用させていただきます。

今後も、臼杵市のまちづくりの魅力を効果的に発信するとともに、魅力ある返礼品の開発を通じて、寄附額のさらなる増加と地域経済への波及効果を図ります。

### 令和8年度一般会計当初予算（案）～未来重点型の積極予算～

以上の方針と諸施策に基づき予算編成を行った結果、下記の未来重点型の積極予算案を編成いたしました。

令和8年度は、引き続き物価高騰の動向を注視しつつ、令和7年度に策定した「第3次臼杵市総合計画」に掲げる将来像の実現に向け、積極的かつ着実に市政運営に取り組めます。

#### 【予算総額】

25,202,538千円

（前年度比7.2%増（16億8,419万8千円増））

※2005年の市町村合併以降で過去最大規模